

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100161		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター千葉浜野		
所在地	千葉市中央区村田町799-1		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	平成25年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成25年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ニチイケアセンター千葉浜野はJR『浜野』駅より徒歩5分の立地の良い場所にあり、庭には花壇や畑、梅や桜も鑑賞でき、四季を感じられる静かで落ち着いた環境です。散歩や買い物で地域の方と関わりを持ち、敬老会や七五三、節分、盆踊り等の地域行事に招待され、専用のテント等もご用意して下さり、地域の一員として浸透しています。ホームの理念である『歩みを助ける杖のようなさりげない支援者になる』のとおり、入居者様が負担に感じない、さりげない支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、利用者が有する能力をできるだけ発揮して、楽しく日常生活が過ごせるよう、管理者を中心に全職員がさりげなく自立支援することを目指している。利用者は、自分のペースでゆったりと落ち着いた雰囲気の中で生活しており、家族にも、その様子が「浜野便り」として毎月届けられる。利用者家族アンケートでは、自立支援に対する感謝とともに職員が生き生きと働いているとの声も寄せられている。母体のニチイ学館が実施する各種研修会や行政の研修会に、職員を積極的に参加させ、人材育成にも努めている。また、利用者は地域から好意的に受け入れられており、日常の散歩時にも挨拶を交わすなど、地域との良好な関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援を目的とした、入居者様が負担に感じない、さりげない支援を実践しています。	当ホームの理念『歩みを助ける杖のようなさりげない支援者になる』は、二年前管理者の交代を期に、職員と話し合って、作成したもので、全職員は理念に沿って自立支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加し、会場の設営等や地域の一斉清掃に積極的に参加しています。	町会に加入し、地域の清掃作業、盆踊り、秋祭りなどに利用者も参加している。また、日常の散歩時、地域の人と挨拶を交わしたり、ホームの行事に、地域の民話の会のボランティアが出演したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物等の際、こちらからお声をかけることで地域の方達と触れ合い、認知症の方へのご理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しています。 地域の民生委員、市のあんしんケアセンター、ホーム関係者で構成されています。 行事や入居状況を報告し、また、地域の情報やご意見をいただき、サービスの向上に努めています。	2ヶ月毎に開催される運営推進会議ではホームの活動状況の報告に加え、参加者とは火災の際の対応、地域の行事への参加確認、ホームの行事への招待など幅広い情報交換がなされている。	内容の濃い取り組みをしているので、できれば運営推進会議への家族の参加に向けての継続的な働きかけを期待したい。
5	(4)	我孫子市本町3-7-10 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉県グループホーム連絡会や千葉市の集団指導に参加するなど、連携に努めています。	運営推進会議での市のあんしんケアセンター職員との情報交換に加え、千葉市のグループホーム連絡会や集団指導に出席時、積極的に市の担当者との情報交換に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉市の身体拘束廃止研修に順次参加し、その学びを他職員に会議等で伝えていきます。 常に施錠はせず、入居者様の意思を尊重し、職員が一緒に行動しています。	身体拘束はしないとの方針で、ドアの施錠もしていない。利用者が外出しそうな様子があれば、さりげなく声をかけたり、一緒について見守るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修に順次参加し、会議等で情報を共有し、職員間で注意合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方が2名おり、必要性を理解しています。毎月、後見人の面会があり、必要な情報を提供し安心していただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせ、説明、質疑を十分に行い、ご不明、ご不安な点がないよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時及び、家族会を開催し、また、遠方のご家族にはお電話で、管理者や職員とお話ができるように心掛けています。	利用者の様子を「浜野便り」として毎月家族に届け、来訪時あるいは家族会などで意見を出しやすいよう工夫しており、職員の対応に対する家族の評価も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度以上の会議の場において、職員の意見や提案を反映しています。	管理者の「利用者満足は職員満足から」の考えのもと、毎月全職員が参加するホーム全体の会議に加えて、各ユニット毎の担当者会議でも十分に意見交換を行っており、職員も生き生きと仕事をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者はキャリアアップ制度による昇給があり、契約社員は、正社員への登用制度が設けられています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修など研修への参加を促進しています。 ホーム内では新人オリエンテーションや外部講師を招き研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政やグループホーム連絡会に参加し、意見交換を行い、サービスの向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメントに力を入れ、傾聴する事で、ご本人の課題を見つけ出しています。何よりご本人の安心に重点を置いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりご入居前の様子を伺い、今後のご希望や不安を取り除けるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、必要な支援を見極めて提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、困難なことを各職員が把握し、自立を促す関係を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご希望を、ご家族ににお伝えし、共有できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の来訪や年賀状のやりとり、電話での会話等、なじみの関係を維持できるように努めています。	家族や友人の来訪が多い。年賀状や手紙、電話のやり取りも支援している。家族と行き付けの美容院でヘアメイクやネイルのおしゃれを楽しんでくる方も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お部屋の行き来をするなど、友人関係が構築されている方もいらっしゃいます。また、孤立しないようにゲーム等に参加していただけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知りうる限り、残念ながら亡くなられた方の葬儀に、職員と共に伺わせていただいたり、困ったことがあったらご相談くださるようお願いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成前に、ご本人、ご家族の意向を伺い、介護計画に反映しています。	日々の暮らしの中での何気ない言葉や仕草から、その方の希望や今何が必要かを把握している。家族の意向も伺い、笑顔の有る暮らしが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご家族のご協力のもと情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画や介護記録、アセスメントにより、ありのままの姿を把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を踏まえた上で、担当者会議の場において、本人の課題を見出し、介護計画に反映しています。	個人別担当者が本人の意向をしっかりと把握し、担当者会議で職員全員で課題に沿った介護計画が立てられている。3ヶ月毎にモニタリングし、状態の変化の有る時はその都度カンファレンスして見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録や申し送りノートを活用し、情報を共有しながら介護計画の見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容や訪問マッサージ、ボランティア等を積極的に受け入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域の方たちと多く関わられるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療のほか、24時間、主治医に相談できるので、ご本人、ご家族の安心に繋がっています。	月2回のかかりつけ医の往診があり、24時間対応の相談が出来、家族から信頼されている。看護師、歯科医、希望者にはマッサージ師の訪問に加え、訪問薬剤師が薬の管理をして薬の間違いを未然に防ぐ工夫もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度、医療連携による看護師の訪問があり、個々の精神面、身体面の相談に乗ってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提供し、退院時もサマリー、診療情報提供所をいただき、今後の支援に役立てています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に『重度化した場合の指針』を説明し、ご同意をいただいています。 終末期は、ご本人、ご家族、主治医、ホームにて、話し合いのもと、極力、ご希望に沿えるようにしています。	契約時に「重度化した場合の指針」を説明し同意を得ている。どのような終末期を迎えたいかをその都度話し合い、家族の協力を得て対応している。看取り期に職員の「やり遂げた」という献身的介護に、家族からの感謝の言葉が寄せられている。	看取りを終えた職員には管理者によるきめ細かなメンタルケアが講じられ心の安定が保たれたが、これからも家族と協力した悔いのない支援が出来る事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルがあり、職員全員が迅速な対応ができる体制が整っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者様も参加する避難訓練で避難体制と避難場所の確認を行っています。	消防署指導で避難訓練が行われている。利用者も参加し役割分担、避難経路と避難場所の再確認をしている。実際に避難に何分かかかるか繰り返し訓練をしている。地域の方との協力体制もできつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した呼び方や言葉使いをしています。入浴や排泄時はプライバシーに配慮した支援を行っています。	年長者として敬い、その人が出来る事は見守り、支援が必要な時は「さりげなく」を心掛けている。言葉遣いはその人に合うように工夫し、焦らず、根気よく、ゆっくりした対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お食事の好みを伺ったり、献立を決める場面に参加していただいています。衣類もご自身で選んでいただけるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場において、生活の流れはありますが、その中で、ご本人の希望が叶えられるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問理容でお好みを伺い整髪し、また、入浴後はご自身で鏡を見て整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて、職員と一緒に調理や盛り付け、後片付けを行っています。また、誕生会や季節のイベントの祝膳、出張寿司などで楽しんでいただいています。週1度のお好みメニュー作りに参加しています。	献立を利用者と一緒に考え、キッチンで作っている。出来る方は調理、盛り付け、後片付けをし、自分の得意とすることで力を出している。誕生会、イベントの祝い膳、出張寿司など、好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスがとれた献立を参考に、ホーム内で調理しています。その方にあった食事形態で召し上がっていただいています。また、食事量、水分量を記録し、健康管理に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後にそれぞれの能力に応じて歯磨きを行っています。義歯は夕食後専用薬剤で消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録より排泄のサイクルを把握し、トイレ誘導を行っています。トイレに座っていたことで、排泄の自立を目指しています。	介護記録で排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。羞恥心に配慮した言動を心がけ、全員トイレに座る事で自立を目指している。可動式の手すりとウォシュレット便座も快適な支援になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂り、適度な運動の機会を設けています。また、乳製品や植物繊維、オリゴ糖等を提供し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中より入浴できる環境が整っています。本人の自立度に配慮した、さりげない支援を実践し、入浴を楽しんでいただいています。	入浴は週2、3回、希望で好きな時入浴出来る。自立度に配慮したさりげない支援で、安全で快適な入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には言葉やタイミングを工夫し、無理強いないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度に配慮し、よく眠れるように足浴を実施しています。夜間は2時間間隔で巡回し、安否の確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方により、居宅療養管理指導が薬の管理をしています。服薬に関しては5段階の確認により、服薬の間違いを未然に防いでいます。職員は薬の作用、副作用を把握し、症状の変化に対応できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や清掃、洗濯物等家事全般において、得意分野を活かしていただいています。個々の趣味活動ができる環境です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、中庭での茶話会、年2回の遠足等で外出の機会を設けています。	天気の良い日は近くの公園への散歩や、コンビニまで日用品の買い物などに出かけている。年2回、千葉市の福祉バスを利用した遠足を楽しみ、介護タクシー利用でお花見やイチゴ狩りにも出かけている。中庭でのお茶会や芋煮会は家族も参加して大盛況であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人規定により、個人での金銭の管理はご遠慮していただいておりますが、事務所で管理しているお小遣いは自由に使えることができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやり取りや、電話も自由にお使いいただいております。その際の必要な支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室毎に表札があり、トイレにも分かり易い表示があり、入居者様が不安なく生活できています。 季節感を意識したディスプレイや、思い出の写真を掲示しています。	リビングはカーテン越しの日差しが柔らかく、床暖房で心地よい温もりに包まれている。得意な絵や手芸の作品が飾られ、自分の好きなことを楽しむ、張りのある暮らしが垣間見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの自席は決まっていますが、窓辺のソファやお座敷はご自由に使っていただけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただき、心穏やかに生活できる空間を作っています。 また、ご家族と相談し安全に配慮しています。	使い慣れた家具や寝具を持ち込み、仏壇も置くなど、穏やかな生活が送れるよう工夫されている。ベッドから入口への動線上に物を置かないなど、家族と相談し、夜間の安全にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが持っている力を発揮できるよう、手すりやキッチンの高さへの配慮がなされています。		